

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

ドル/円相場は、来年以降に向けた長期ドル安・円高トレンドにある中、しばらくは105円～115円のレンジ相場を続けていくものと考えます。

昨年までは2012年から続いてきた長期ドル高・円安トレンドが続いていたわけですが、今年に入ってそれが終了したと判断されます。

【ドル/円 週足】



テクニカルで見て、下値を支えてきたサポートラインを下方ブレイク (①) したこと、相場の長期の方向性を示す52週移動平均線が下向き（ドル安・円高方向）に転換したことに加え、1995年以降のドル高・円安局面がほぼ2～3年サイクルで終了していることと整合します。つまり現在のドル/円相場は2012年から2015年のドル上昇に対する調整局面にあるものと考えられ、そうであれば95年以降のドル安・円高に対する調整は最短でも約1年弱続いており、今回に当てはめると2017年前半まではドル安・円高トレンドが続きそうです。

しかし、95年以降のパターンを見ると、52週移動平均線が下向きに転換した後は-10%～-14%程度まで下方乖離すると一旦下げ止まる傾向が見られ、現在の水準で計算すると下値めどは107円～102円程度となり、5月のGWでの下押しで105円台をつけていることから一旦は反発する可能性が出て来ています。

ドル/円相場のトレード戦略

また、下げ止まり後は52週移動平均線近辺まで反発する可能性があり、上値のめどは52週移動平均線のある119円水準です。ただし、上値に関しては今年3月何度も上抜けを試して跳ね返された114円～115円はきわめて強い抵抗となっており、この水準を上抜けることは難しいように思われます。

以上のことから当面は105円～115円のレンジでの上下動が続くため、レンジ内での押し目買い・戻り売りが中長期で見たメインのトレード戦略となります。

リスクシナリオとしては、

- ①マーケットにサプライズを与える新たな手段による金融緩和や日銀のドル買い・円売り介入によって115円をクリアーに上抜き120円水準まで上昇すること、
- ②米国経済の悪化により米国が利上げできない、もしくは利下げを検討するなどの要因によって105円さらには100円を下抜けてしまうこと、が考えられます。

■ 短期展望

先週、麻生財務大臣が国会で為替介入の可能性を肯定する発言をしたことを受け、ドルは109円台まで回復しました。日銀の追加緩和見送りを受けた「日銀ショック」もひとまず落ち着き、目先のドル底割れのリスクは回避されたと考えられます。

しかし、先週後半の109円台での動きを見ると、109円台でのドル売り圧力を強く感じる展開でした。まだ110円を突破していくシナリオは描きにくい状況といえそうです。

一方、米国の景気指標は堅調で、米国の追加利上げの期待がドルを下支えすることとなります。したがって、短期的にはドル/円に関して中立スタンスで臨むこと、つまり105円～110円のレンジ相場で方向感が見出しにくい「上がれば売り、下がれば買いで早めの利食いを心がける」がメインの戦略となるでしょう。

注意すべきイベントとして、週末（20・21日）の仙台7カ国財務相・中央銀行総裁会議（G7）、来週末（26・27日）の伊勢志摩サミットがあります。G7では為替は主要議題にはならない見通しですが、日本に対しては金融緩和だけでなくあらゆる施策を講じるべきとの圧力が強まる可能性もあり、「消費増税先送り」や「10兆円規模の大型補正予算」といった期待が高まれば円安に振れる可

ドル/円相場のトレード戦略

能性があるものの、日米両国の為替相場に関する認識のずれが表面化してくる場合は円高圧力が強まる可能性もあり、現状の105円～110円のレンジが維持されるかを見極める必要があるといえそうです。